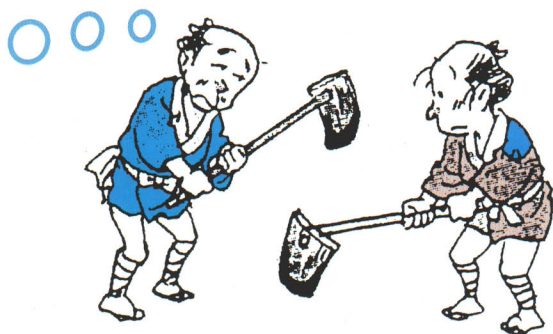


水の量をもっとふやしたいものだ。  
 「人足」仕事をもっとへらないだろ  
 うか。



さくせん

1

☆半田銀山の技術を教わり、片貝山にトンネルを掘る。ろうそくの光をたよりに仕事をし、長い年月かけて堰の土手がくずれないようにする。



★ところが、大雨がふるとまた土手が流されたのです。そのたび「ミノカサに鍬」と弁当を自分で用意して仕事をし、人々は苦勞しました。(1846年)

さくせん

2

☆雨がふってもくずれたり、流されたりしないセメントを使った堰にする。



★セメント堰になり、土手は流されなくなりました。

(1908年・明治41年ころ)

でも、広瀬川の天気の良い日が続くと水は足りず、こまりました。

さくせん

3

☆ほかの川から、水を引いてくる。



★福島のほうらい発電ダムからトンネルをほって、「東根堰」を作り、より多くの水が手に入るようになりました。(1944年・昭和19年)

「砂子堰」も、「県」のかんがい水路工事が行われ、トンネルが新しくなり、水路も三面がコンクリートにかわりました。(1973年・昭和48年)